



# 2022年3月期 第1四半期 決算短信補足資料

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当該会計基準等を遡って適用した前年同四半期連結累計期間及び前連結会計年度との比較・分析を行っております。

2021年8月4日  
**日本水産株式会社**

国によりバラツキはあるものの、経済活動の回復に伴い「食」にかかわる事業環境は好転したうえ、国内養殖やチルド事業の改善効果もあり、営業利益は前年同期比66%、一昨年と比較しても約20%増益と好スタートとなった。

(単位：億円)	2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期	対前年同期比		2022年3月期 年間計画	進捗率
			増減	増減率(%)		(%)
売上高	1,519 億円	<b>1,654</b> 億円	134 億円	8.9	6,420 億円	25.8
営業利益	42 億円	<b>70</b> 億円	28 億円	66.7	200 億円	35.2
経常利益	49 億円	<b>74</b> 億円	25 億円	52.0	230 億円	32.6
四半期 純利益	31 億円	<b>51</b> 億円	20 億円	63.5	150 億円	34.6

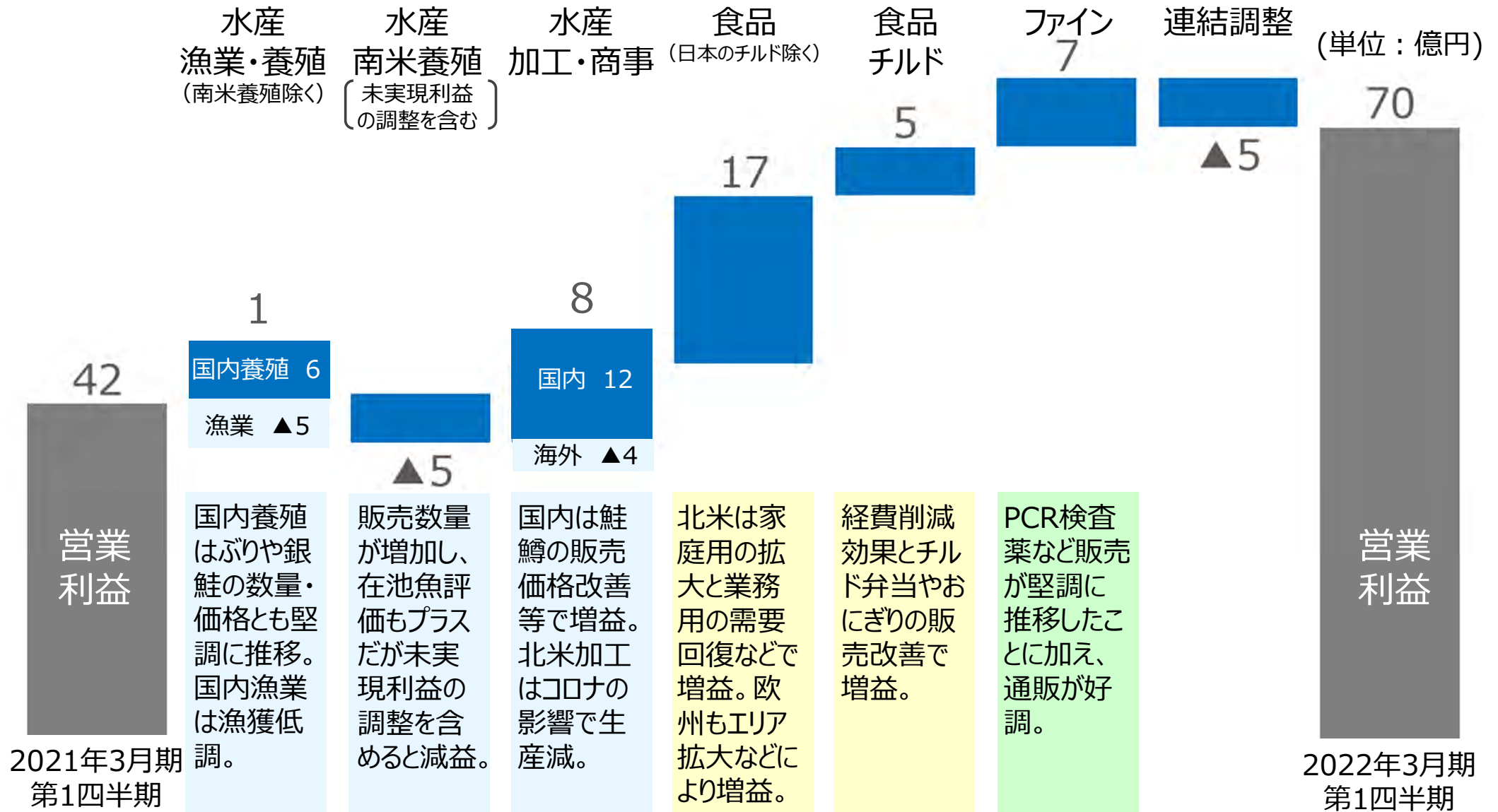
主要事業が増収増益。特に食品は昨年に引き続き海外が好調。

(単位：億円)	2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	率(%)
<b>売上高</b>	<b>1,519</b>	<b>1,654</b>	<b>134</b>	<b>8.9</b>
水産事業	617	635	17	2.8
食品事業	769	840	71	9.3
ファインケミカル事業	53	78	24	46.7
物流事業	41	39	▲2	▲4.9
その他	36	59	22	62.1
<b>営業利益</b>	<b>42</b>	<b>70</b>	<b>28</b>	<b>66.7</b>
水産事業	19	21	1	5.4
食品事業	30	51	20	66.2
ファインケミカル事業	2	10	7	264.0
物流事業	4	5	0	20.4
その他	1	1	▲0	▲34.1
全社経費	▲17	▲19	▲1	7.5
<b>経常利益</b>	<b>49</b>	<b>74</b>	<b>25</b>	<b>52.0</b>
<b>親会社株主に帰属する四半期純利益</b>	<b>31</b>	<b>51</b>	<b>20</b>	<b>63.5</b>

# 主な営業利益増減要因(前年同期比)



海外の水産・食品事業は行動規制の解除とともに回復し、前年同期比で大幅増益、一方、国内漁業と北米の水産加工は苦戦。



# 連結貸借対照表(前期末比)



季節的な要因もあり運転資本は増加。固定資産の増加は欧米の生産性向上と成長投資。

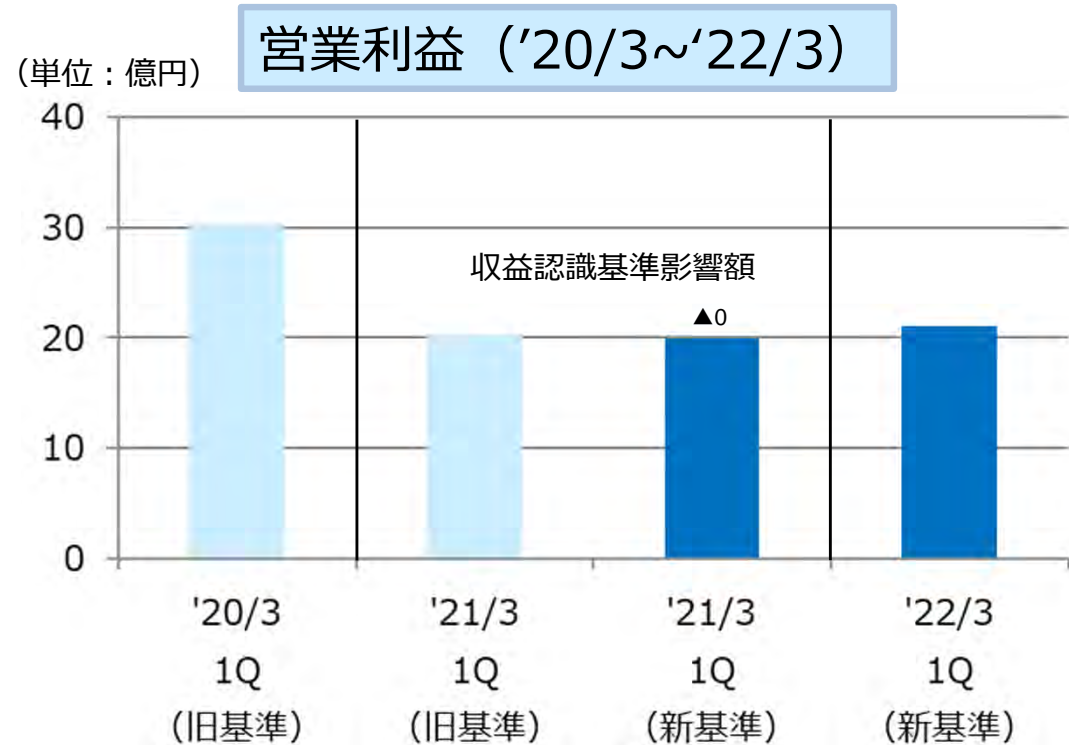
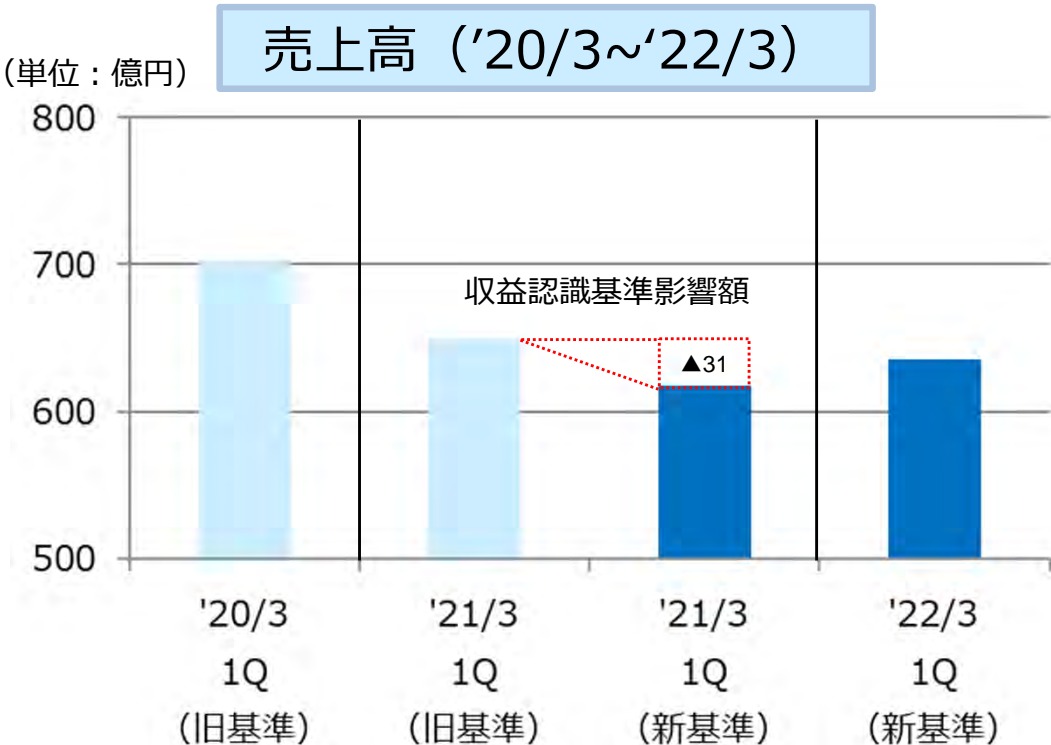
( ) 内の数字は前期末比増減			(単位:億円)		
<b>流動資産</b>	<b>2,511</b>	<b>(+193)</b>	<b>流動負債</b>	<b>1,702</b>	<b>(+164)</b>
現金及び預金	131	(+21)	支払手形及び買掛金	440	(+23)
受取手形及び売掛金	855	(+95)	短期借入金	854	(+168)
棚卸資産 (在庫)	1,344	(+53)	未払費用	236	(+7)
<b>固定資産</b>	<b>2,450</b>	<b>(+14)</b>	<b>固定負債</b>	<b>1,313</b>	<b>(▲26)</b>
有形固定資産	1,487	(+13)	長期借入金	1,088	(▲33)
無形固定資産	100	(+2)	<b>純資産</b>	<b>1,947</b>	<b>(+69)</b>
投資その他の資産	862	(▲2)	自己資本	1,763	(+69)
<b>総資産</b>	<b>4,962</b>	<b>(+207)</b>	自己資本比率		
			'21/3	35.6%	⇒ '21/6
					35.5%

活動量が一昨年並みに回復し、第1四半期では営業CFはマイナス。

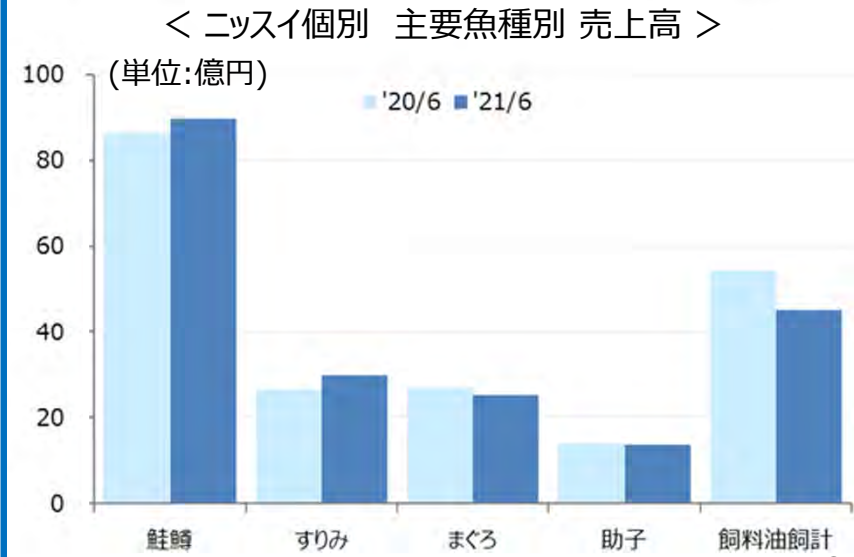
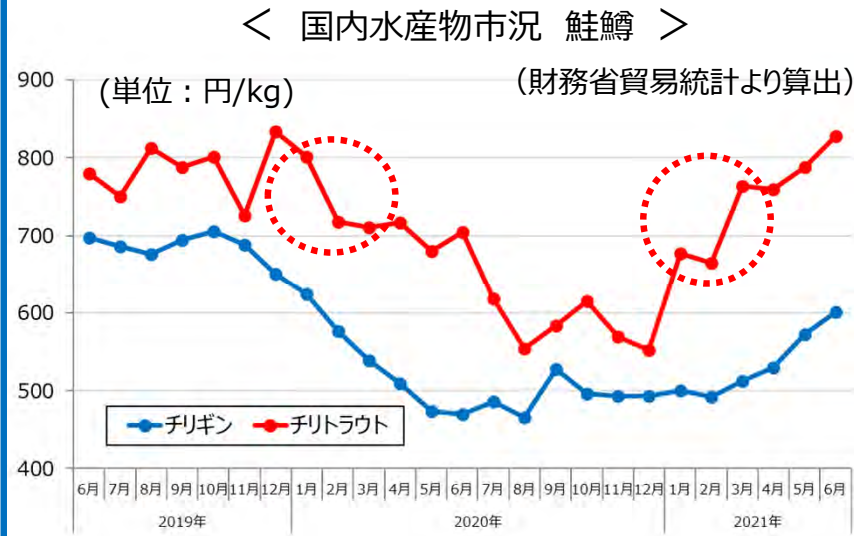
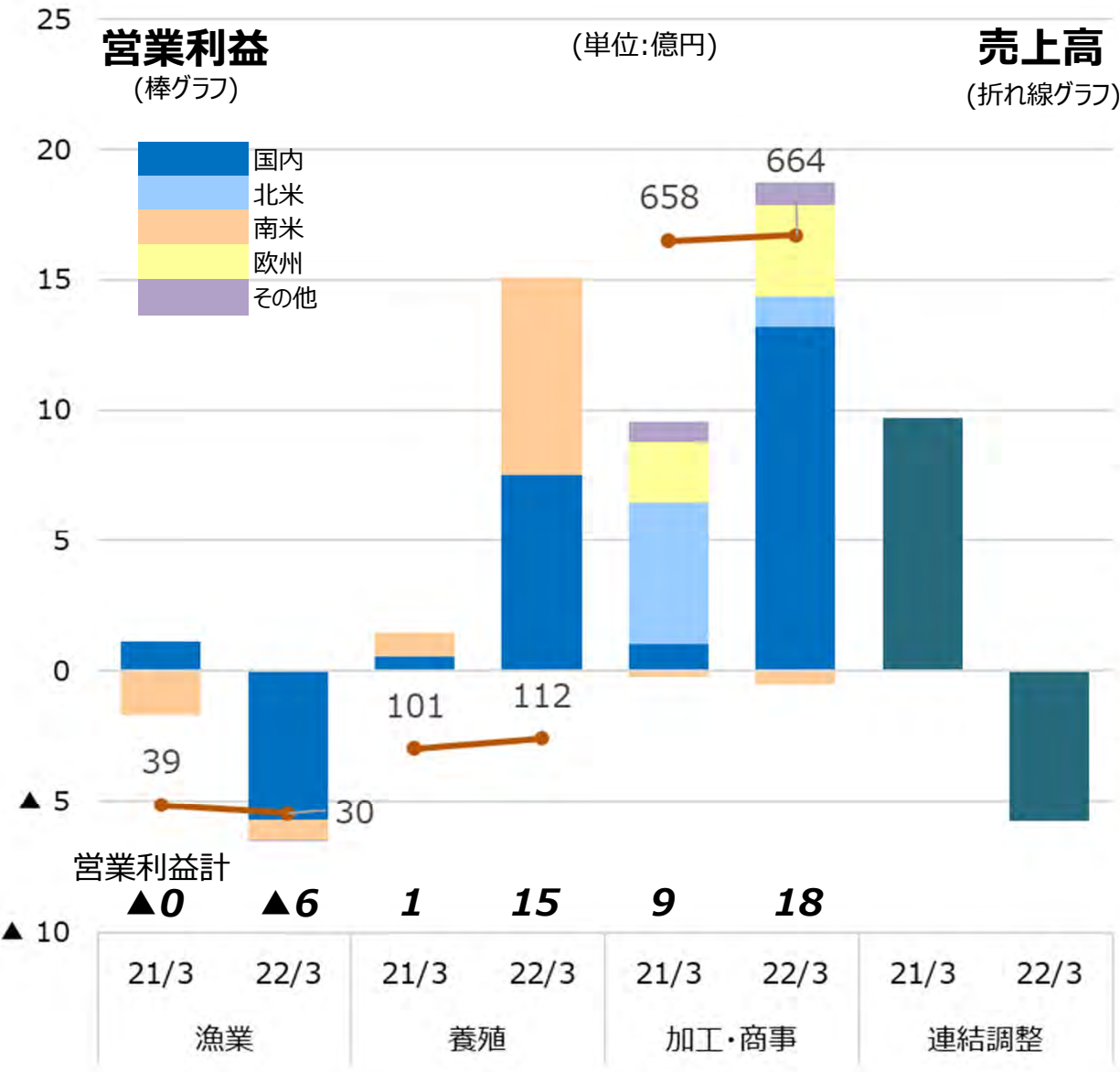
(単位:億円)	2021年3月期 第1四半期実績	2022年3月期 第1四半期実績	増減
・税金等調整前四半期純利益	49	76	28
・減価償却費 (のれん償却含む)	47	47	0
・運転資本	▲ 22	▲ 94	▲ 71
・法人税等の支払額	▲ 16	▲ 29	▲ 12
・その他	▲ 3	▲ 42	▲ 39
<b>営業活動によるCF</b>	<b>55</b>	<b>▲ 42</b>	<b>▲ 97</b>
・設備投資額 (固定資産取得額)	▲ 54	▲ 45	8
・その他	37	7	▲ 30
<b>投資活動によるCF</b>	<b>▲ 16</b>	<b>▲ 38</b>	<b>▲ 21</b>
・短期借入金の増減額	▲ 80	131	212
・長期借入金の増減額	129	▲ 8	▲ 137
・その他	▲ 17	▲ 20	▲ 3
<b>財務活動によるCF</b>	<b>31</b>	<b>102</b>	<b>70</b>
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>383</b>	<b>169</b>	

水産物市況は総じて回復傾向にあり、主力の鮭鱒を中心に販売は堅調に推移。

(単位：億円)	2021年3月期	2022年3月期	対前年同期比増減	
	第1四半期	第1四半期	(億円)	増減率(%)
売上高	<b>617</b>	<b>635</b>	<b>17</b>	<b>2.8</b>
営業利益	<b>19</b>	<b>21</b>	<b>1</b>	<b>5.4</b>

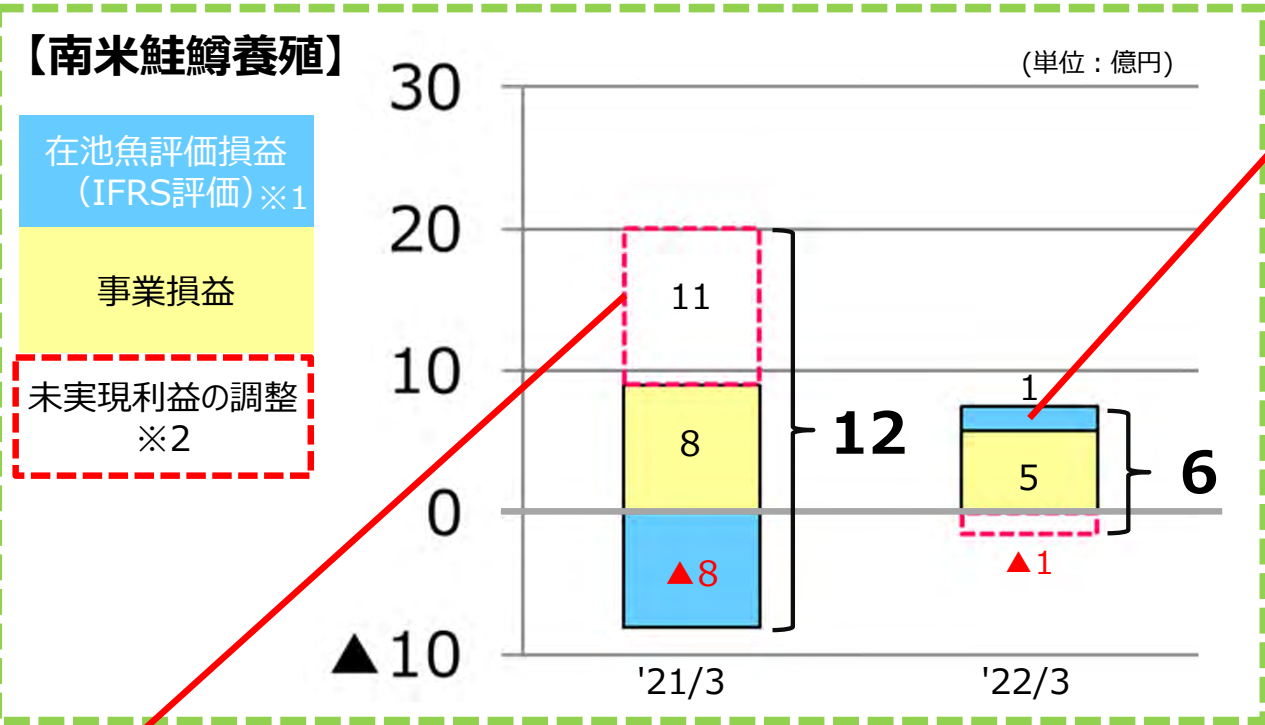


国内養殖はコスト削減効果が出始め、商事は主要魚種の販売価格が改善し増益も、国内漁業と北米すけそうだら加工事業が苦戦。





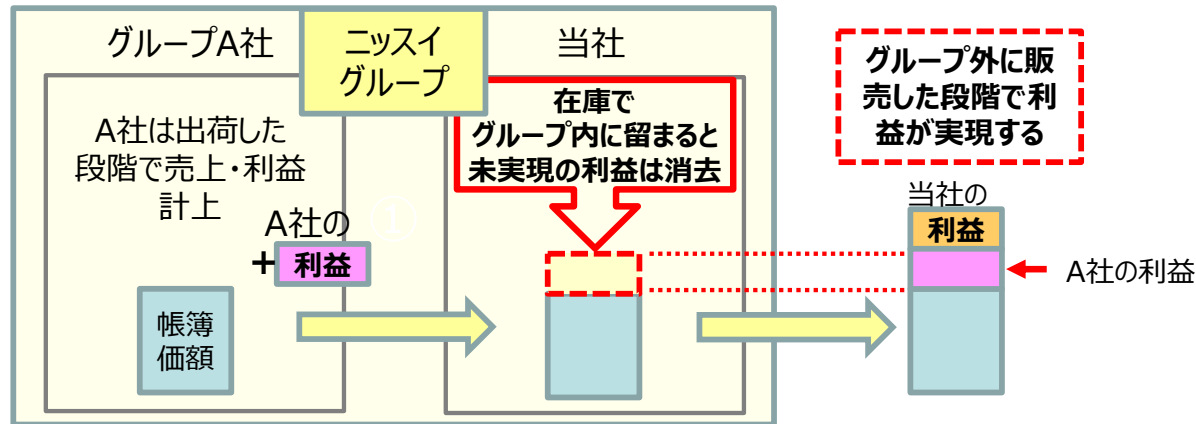
未実現利益を含めた南米養殖事業の実質的な利益は前年同期比約6億円の減益。



※1 在池魚評価損益  
生簀にいる出荷前の魚（在池魚）の想定利益

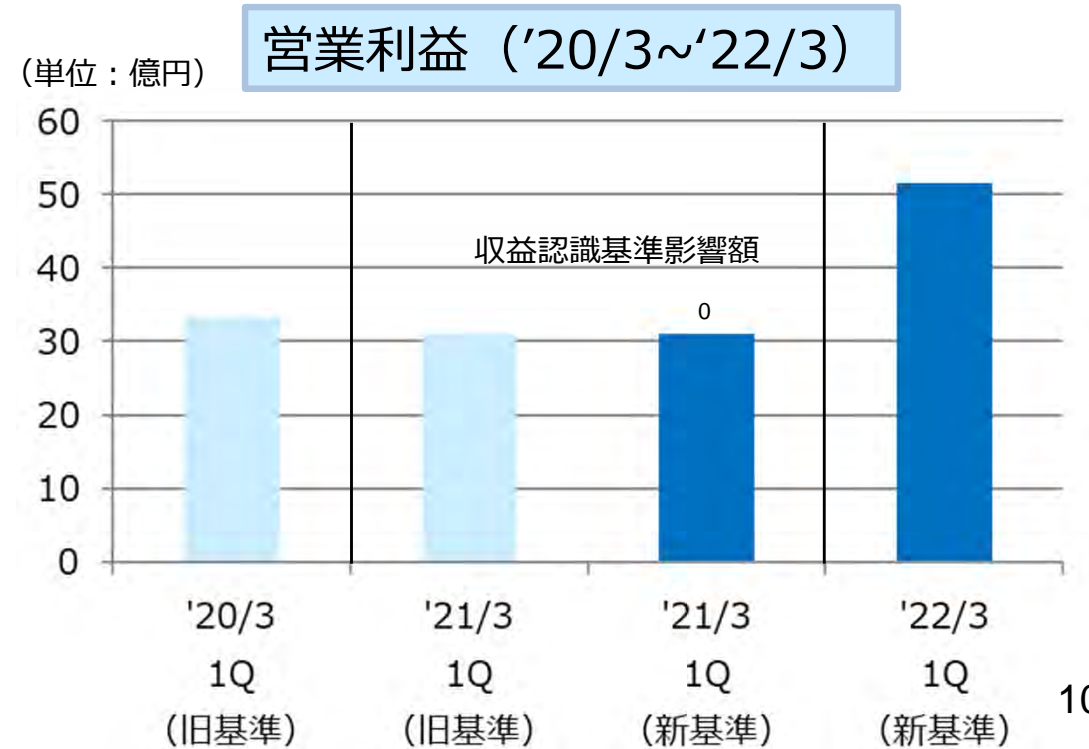
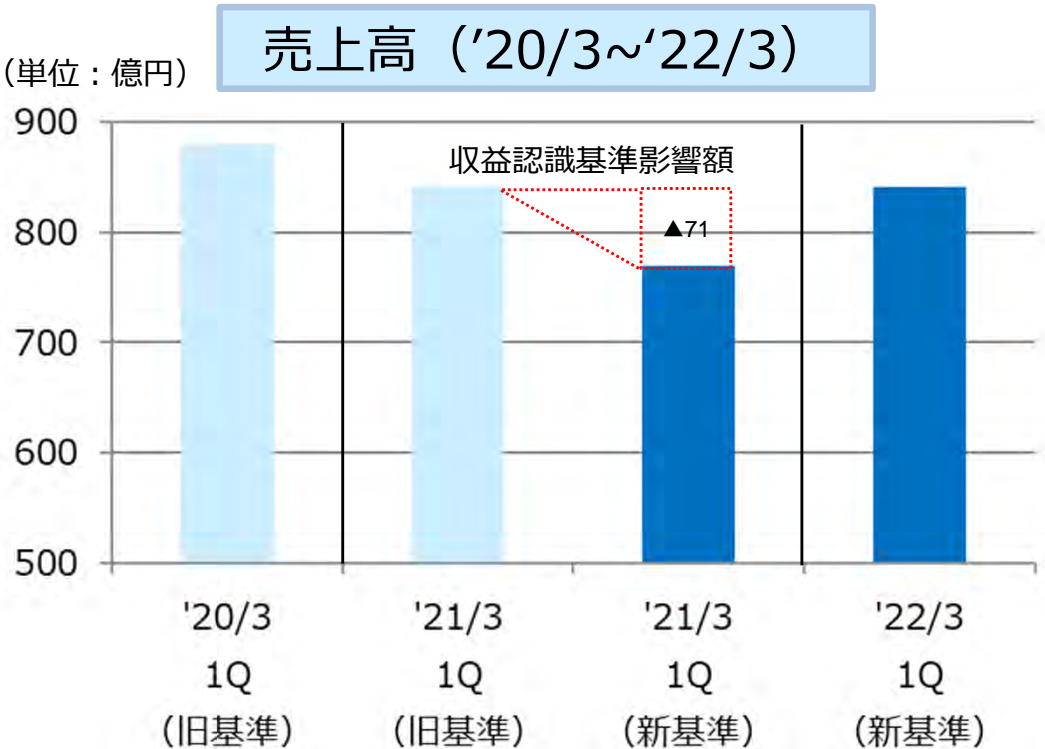


※2 在庫に含まれる未実現利益の調整

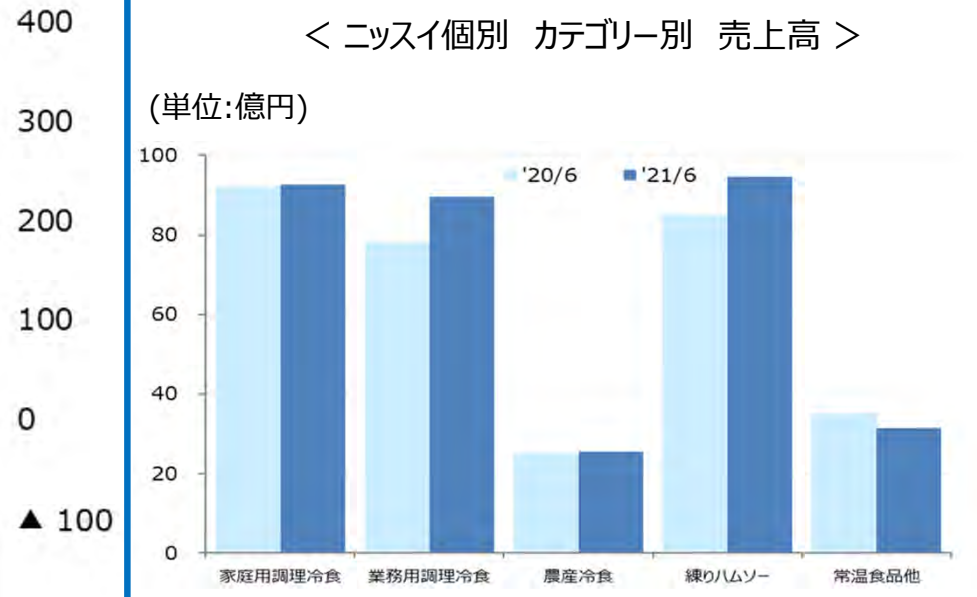
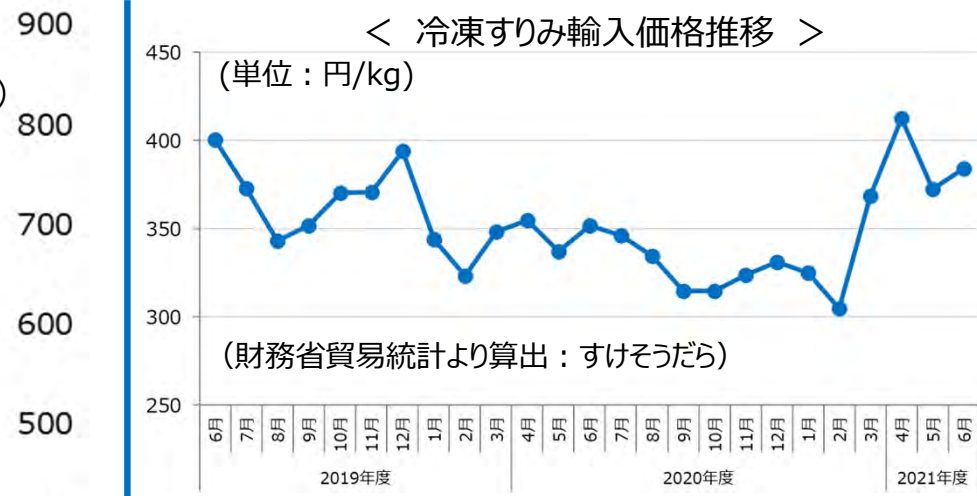
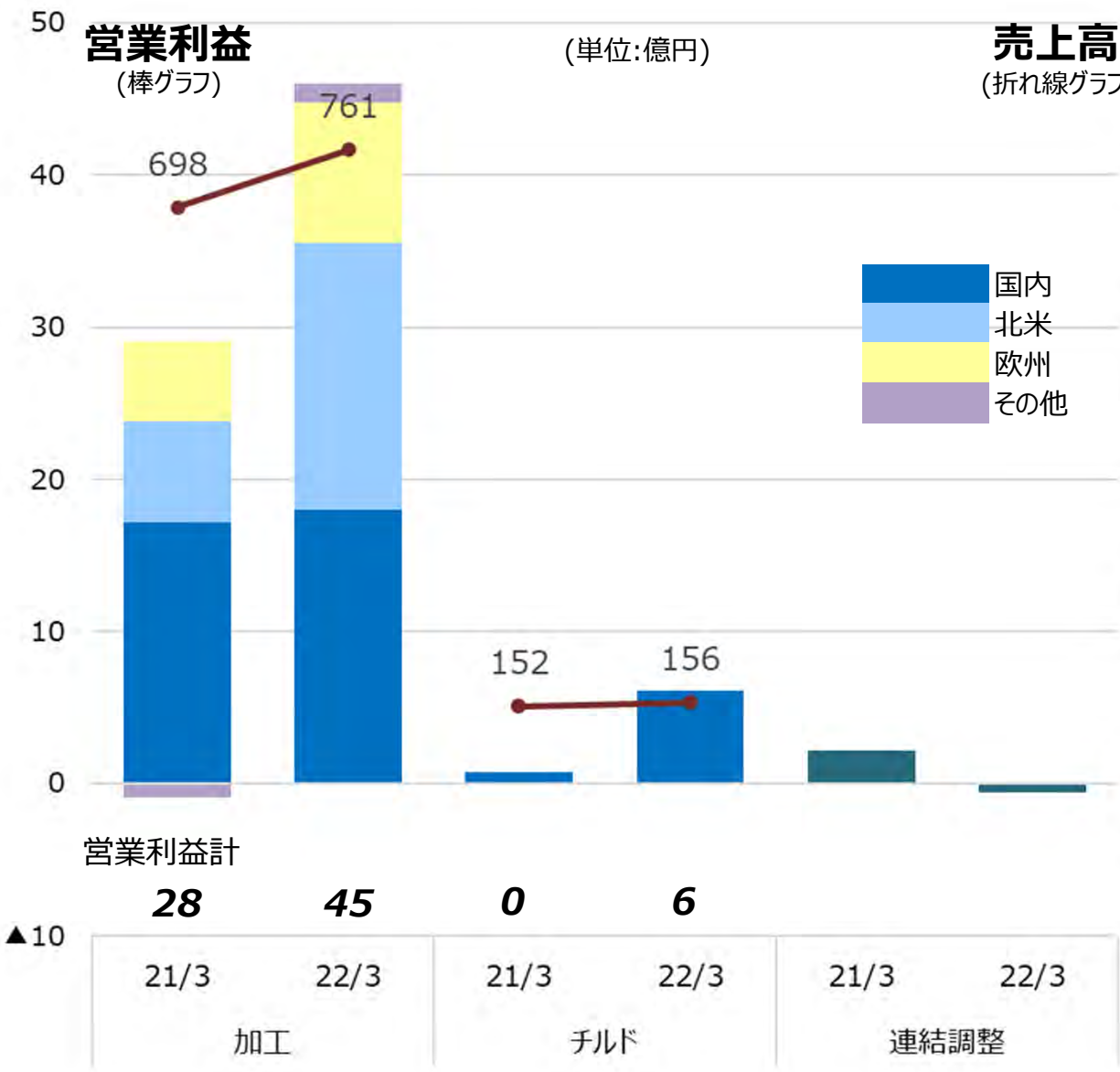


海外の家庭用食品の販売好調が続く中、業務用食品の回復やチルド事業のコストダウン効果もあり大幅増益。

(単位：億円)	2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	769	840	71	9.3
営業利益	30	51	20	66.2

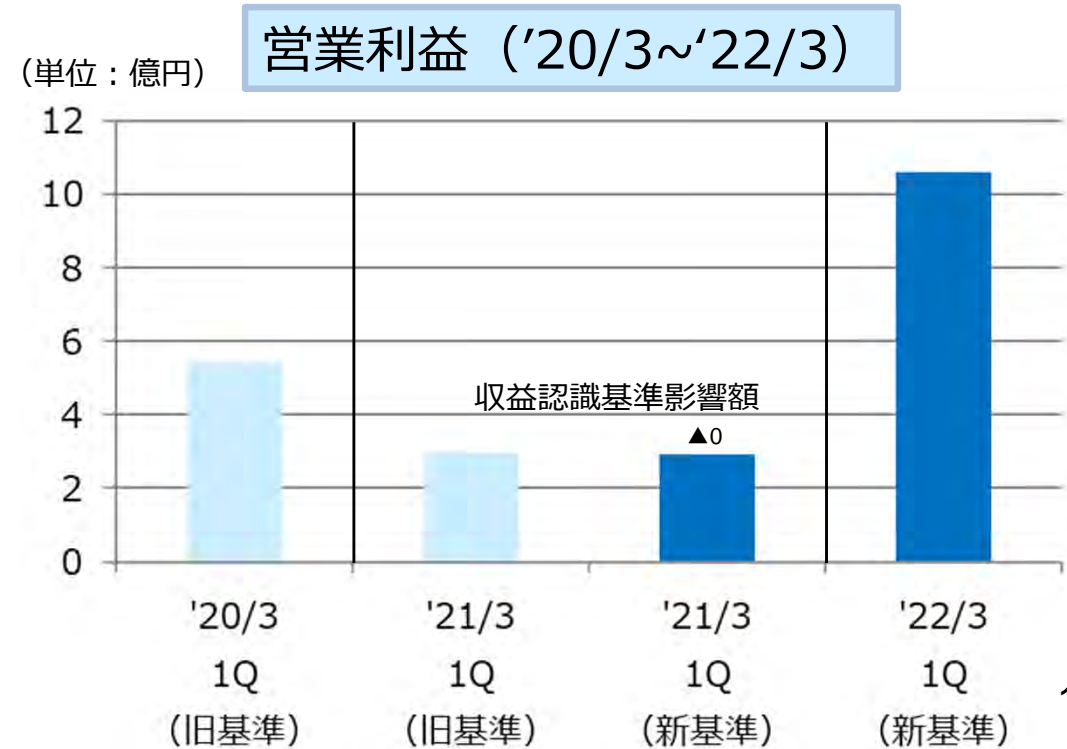
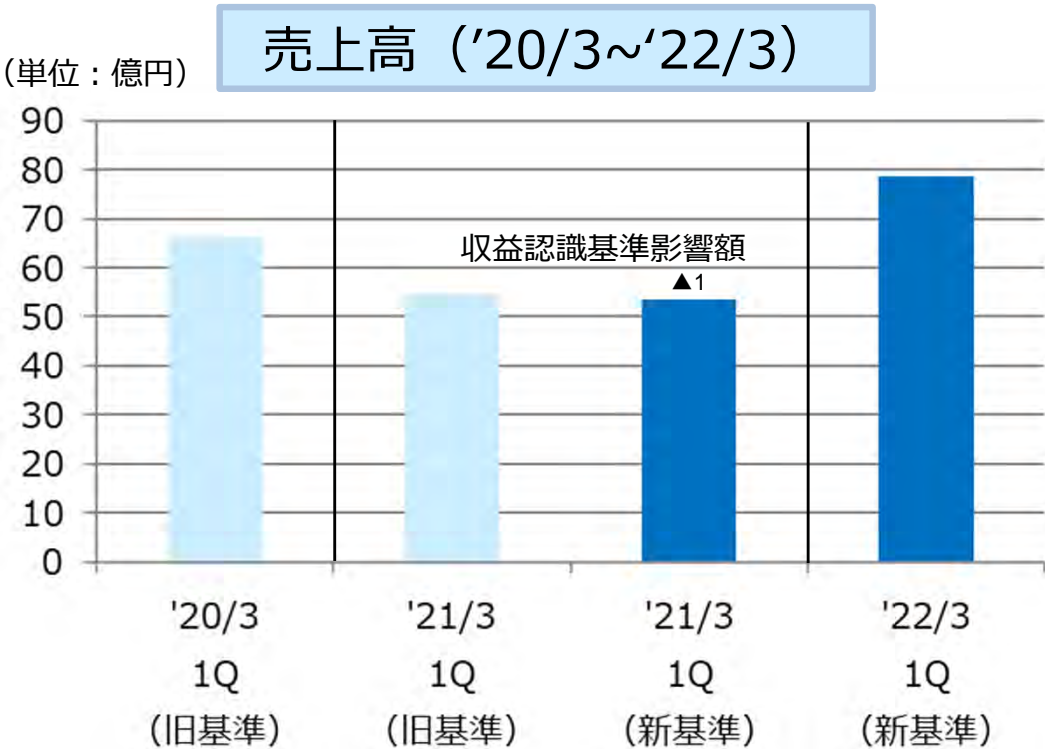


欧米はワクチン接種の拡大に合わせ業務用食品も回復し大幅増収、営業利益も倍増となった。国内も人流が戻り業務用食品が回復基調。



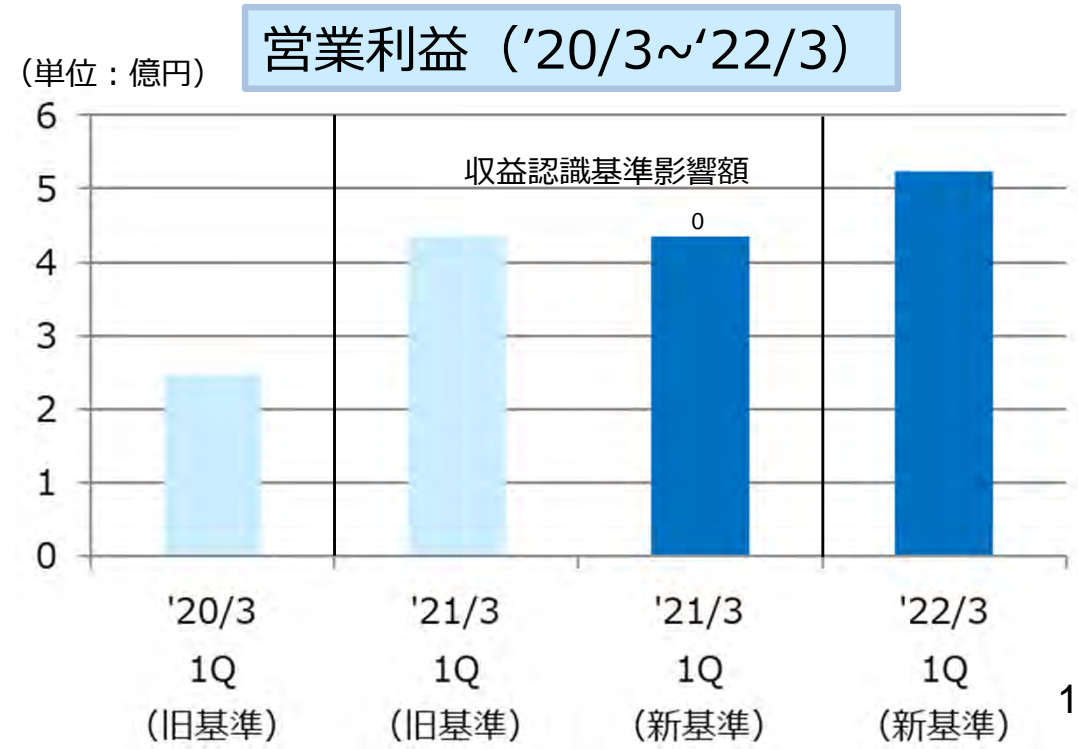
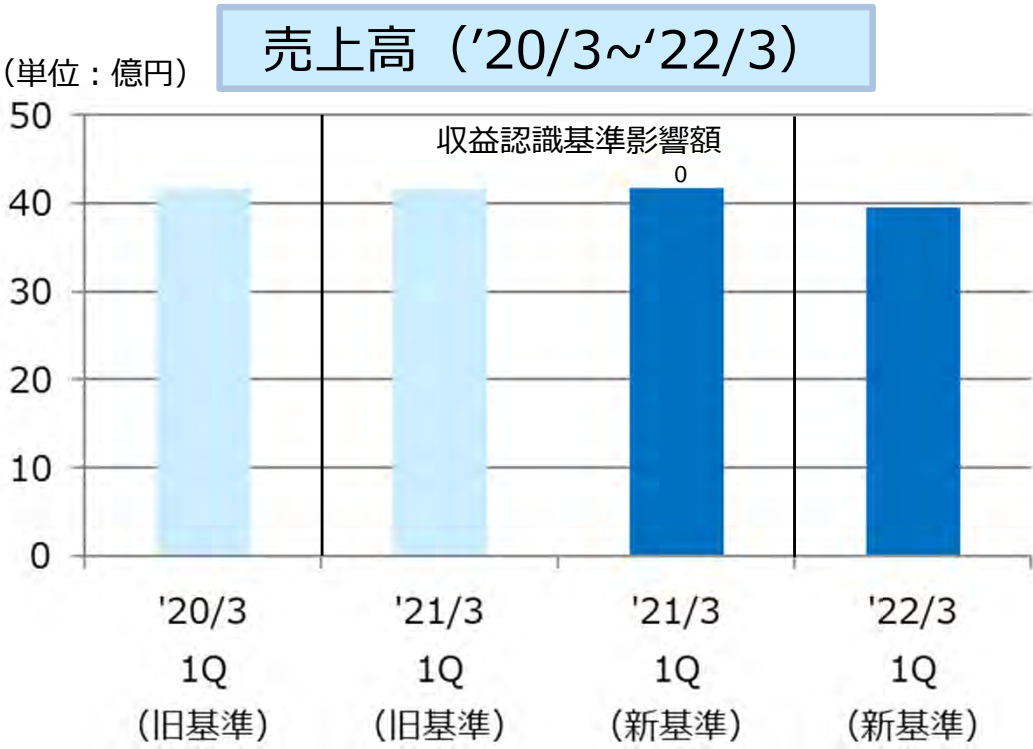
日水製薬の診断薬・検査薬ビジネスはPCR検査薬や海外向け培地の販売が寄与し増収・増益。機能性食品の通信販売も堅調に推移。

(単位：億円)	2021年3月期	2022年3月期	対前年同期比増減	
	第1四半期	第1四半期	(億円)	増減率(%)
売上高	53	78	24	46.7
営業利益	2	10	7	264.0



入在庫量は堅調に推移するも在庫量減少などにより減収。利益は前年の大阪舞洲物流センター2号棟の立ち上げ費用などが減少し増益。

(単位：億円)	2021年3月期	2022年3月期	対前年同期比増減	
	第1四半期	第1四半期	(億円)	増減率(%)
売上高	41	39	▲2	▲4.9
営業利益	4	5	0	20.4

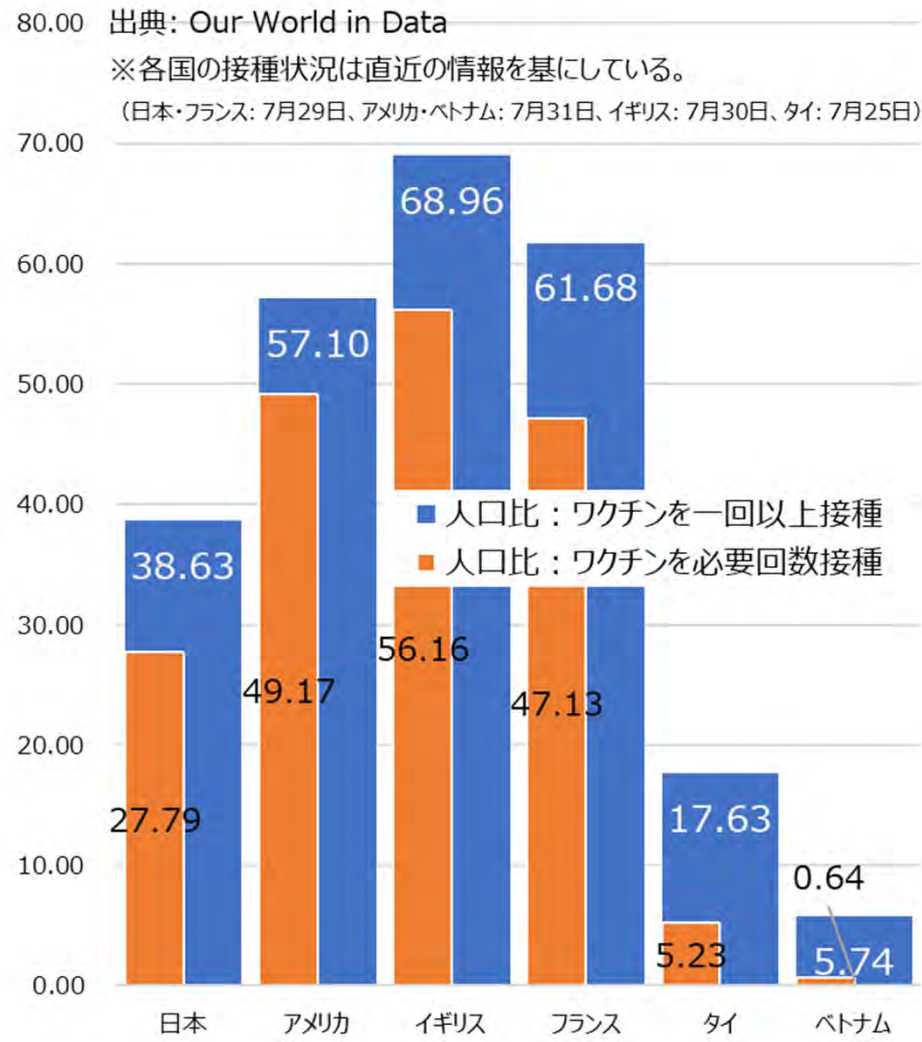


# 今後の見通し・取組み

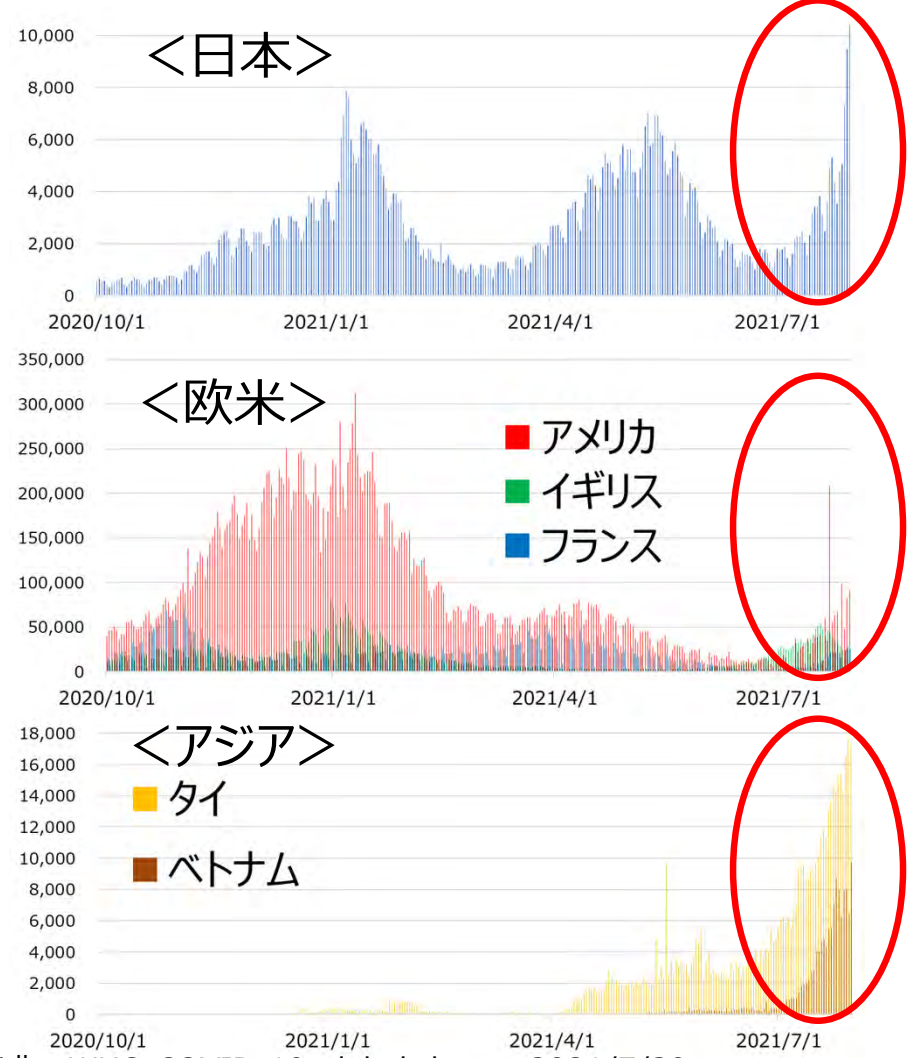


世界中でワクチン接種が進むが、変異株による感染急拡大で生産・調達への影響や原材料・物流費等のコストアップが不安材料。

## 【ワクチン接種状況（各国人口比率）】



## 【新規感染者数推移】



養殖事業はコスト削減・生産性向上による改善策を実行中。  
また、事業拡大に向け、岩手県での事業の具体化を進める。

## 【まぐろ養殖体質強化の取組み】

### ・畜養まぐろの拡大

養殖拠点拡大、自然災害対策などの徹底、  
出荷魚体重の増加による利益最大化

### ・まぐろ養殖会社 2 社の養殖オペレーションの効率化

一部事業所の共同運営、餌の共同購買、  
種苗確保、重複業務の効率化



## 【岩手県 鮭鱒養殖試験】

### ・試験2年目 事業化に向けて前進



大槌町主催  
『岩手大槌サーモン祭り』

2020年 地元漁協等と連携協定を結び、  
岩手県大槌町にて養殖試験を開始、  
事業化に向けて検証中





2021年5月に英国冷凍白身魚フライの生産・販売事業を営む Three Oceans社株式の75%を取得。Caistor社の白身魚フライ事業と連携し、英国における白身魚フライ事業の一層の強化を図る。

## 水産高次加工



2社の連携により  
顧客基盤・生産効率  
の改善を図り白身魚  
フライ事業を強化



**flatfish** (英国)  
英国内での販売  
連携強化

**Cité marine** (フランス)  
食品製造の  
生産面で連携



Three Oceans社は高品質な冷凍白身魚フライのメーカーとして知られており、量販店を含めた小売および外食・給食など業務用に幅広く販売。

高純度EPAの海外展開はFDAによる書面査察がスタートするも、リモートを含めた工場査察時期は未定。日水製薬の検査薬ビジネスの拡大に期待。

## 【日水製薬の診断薬・検査薬ビジネス】

新型コロナウイルス検出用PCR試薬及び拭取り検査試薬キットを販売  
(共に(株)島津製作所開発)

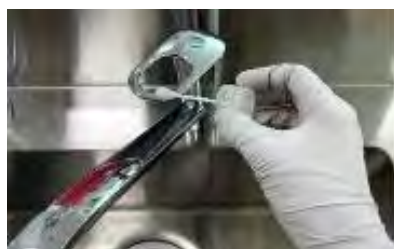
海外でのコンパクトドライ（培地調製不要な菌数測定用の培地）の拡売



PCR試薬



拭取り検査試薬キット



新型コロナウイルスの感染拡大防止を目的とする  
衛生管理・安全確認に使用

海外販売網を整備するとともに、画像アップロードによる菌数計測が実施できるグローバルオンラインサービス「@BactLAB」を展開。

## 巣ごもり需要、健康意識の高まりに対応した商品を展開

### 【Eコマース事業の取組み推進】



家庭用冷凍食品  
「松屋監修 牛めしおにぎり」

松屋・ニッスイ両社がおのこの注力する  
Eコマース市場で拡販。

Eコマース市場で先行販売の後、  
8/1より量販店向けに販売。

### 【速筋タンパク商品の拡充】



※速筋タンパクシリーズ  
質の良いタンパク質であるスケソ  
ウダラすりみ100%を使用した  
商品をシリーズで展開



特許製法による独自技術で  
すりみを麺状に加工



日配品売場向け  
「たんぱく質がとれるおさかなで作った麺 生姜あんかけ」

日配品売場向け  
「煮込んでおいしい」



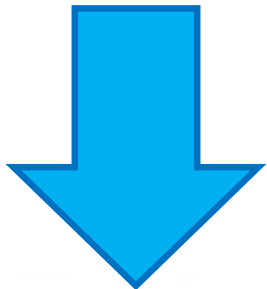


国内で代替肉（大豆ミート）製品の販売をスタート

独自製法の大豆ミートを使用することで  
畜肉の繊維感と肉粒感を再現



VEGETABLE  
• MEAT •



家庭用冷凍食品  
「デミグラスハンバーグ」

畜肉のような食感とジューシーさが味わえる  
コレステロールゼロ、動物性由来原料不使用のハンバーグ



業務用冷凍食品  
「白身魚と大豆ミートのハンバーグ」

白身魚のスケソウダラと大豆ミートで作った、  
本格的な食感のハンバーグ

## 国内鮭鱒養殖会社でASC認証を取得



銀鮭などの養殖・加工・販売を行う弓ヶ浜水産は、2021年7月5日付で、境港海面養殖場(鳥取県)と佐渡事業所(新潟県)についてASC認証を取得



養殖業が持続可能な方法で運営され、周辺の自然環境や地域社会への配慮が行われている「責任ある養殖水産物」であることを証明するもので、水産養殖管理協議会(Aquaculture Stewardship Council)が運営している。

### ASC認証取得を機に国外出荷を検討



弓ヶ浜水産 境港海面養殖場 (鳥取県)



# 持続可能な水産資源から世界の人々を健康に



(2021年7月31日現在)

# 参考資料

## 前年同期比で増収、増益。

(単位：億円)	2021年3月期 第1四半期実績	2022年3月期 第1四半期実績	増減	主な増減要因
売上高	1,519	1,654	134	
売上総利益	241	275	34	
販売費・一般管理費	199	205	5	
営業利益	42	70	28	
営業外収益	11	8	▲ 3	持分法投資利益▲ 3
営業外費用	4	4	▲ 0	
経常利益	49	74	25	
特別利益	1	4	2	投資有価証券売却益+2
特別損失	1	2	1	災害による損失+1
税金等調整前四半期純利益	49	76	26	
法人税等	10	17	6	
法人税等調整額	7	5	▲ 1	
四半期純利益	32	53	21	
非支配株主に帰属する 四半期純利益	0	1	1	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	31	51	20	



# 為替換算による影響額(売上高)、為替レート



主要在外会社の 為替換算レート	2021年3月期 第1四半期		2022年3月期 第1四半期		前年同期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	329	358	347	372	18	13	19	▲6
EUR(百万ユーロ)	81	97	91	117	10	19	12	7
DKK(百万クローネ)	698	112	684	118	▲14	5	▲2	8
その他通貨	—	52	—	58	—	6	4	2
計		621		666		45	34	11

【参考：為替レート】

	2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期	変動率
米ドル (USD)	109.11円	107.15円	▲1.8%
ユーロ (EUR)	120.06円	128.44円	7.0%
デンマーククローネ (DKK)	16.07円	17.28円	7.5%

※右表の為替レートは  
第1四半期の平均

# セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結 計
水産事業	492 (11)	111 (▲18)	53 (6)	16 (0)	134 (8)	<b>808 (8)</b>	▲172 (8)	<b>635 (17)</b>
	480	130	46	15	126	<b>799</b>	▲181	<b>617</b>
食品事業	569 (18)	206 (24)		16 (3)	126 (21)	<b>918 (67)</b>	▲77 (3)	<b>840 (71)</b>
	550	182		12	105	<b>850</b>	▲81	<b>769</b>
ファイン 事業	85 (24)			1 (▲0)		<b>86 (24)</b>	▲7 (0)	<b>78 (24)</b>
	60			1		<b>62</b>	▲8	<b>53</b>
物流事業	69 (0)					<b>69 (0)</b>	▲30 (▲2)	<b>39 (▲2)</b>
	69					<b>69</b>	▲27	<b>41</b>
その他 事業	74 (23)			0 (0)		<b>74 (23)</b>	▲14 (▲0)	<b>59 (22)</b>
	51			0		<b>51</b>	▲14	<b>36</b>
仮計	<b>1,290 (78)</b>	<b>318 (5)</b>	<b>53 (6)</b>	<b>33 (3)</b>	<b>261 (29)</b>	<b>1,957 (124)</b>		
	<b>1,212</b>	<b>312</b>	<b>46</b>	<b>30</b>	<b>231</b>	<b>1,833</b>		
連結調整	▲206 (▲6)	▲32 (18)	▲36 (0)	▲24 (▲3)	▲2 (0)		▲303 (10)	
	▲200	▲51	▲37	▲21	▲3		▲313	
連結 計	<b>1,083 (72)</b>	<b>285 (24)</b>	<b>16 (7)</b>	<b>9 (0)</b>	<b>258 (30)</b>			<b>1,654 (134)</b>
	<b>1,011</b>	<b>260</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>228</b>			<b>1,519</b>

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

# セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結計	営業利益率(%)
水産事業	15 (12)	1 (▲4)	6 (7)	0 (0)	3 (1)		26 (16)	▲5 (▲15)	21 (1)	3.3 (0.1)
	2	5	▲0	0	2		10	9	19	3.2
食品事業	24 (6)	17 (10)		1 (2)	9 (3)		52 (23)	▲0 (▲2)	51 (20)	6.1 (2.1)
	17	6		▲0	5		28	2	30	4.0
ファイン事業	10 (7)			0 (0)			10 (7)	0 (0)	10 (7)	13.5 (8.0)
	2			0			2	▲0	2	5.4
物流事業	5 (0)						5 (0)	0 (0)	5 (0)	13.2 (2.8)
	4						4	0	4	10.4
その他事業	0 (▲0)			0 (0)			0 (▲0)	0 (0)	1 (▲0)	2.1 (▲3.0)
	1			0			1	0	1	5.1
全社経費						▲18 (▲1)	▲18 (▲1)	▲0 (▲0)	▲19 (▲1)	
						▲17	▲17	▲0	▲17	
仮計	55 (25)	18 (6)	6 (7)	2 (2)	12 (5)	▲18 (▲1)	76 (45)			
	29	12	▲0	0	7	▲17	30			
連結調整	▲4 (▲4)	1 (1)	▲1 (▲13)	▲0 (▲2)	▲0 (1)	▲0 (0)		▲5 (▲17)		
	0	▲0	12	1	▲1	▲0		11		
連結計	50 (21)	20 (8)	4 (▲6)	1 (▲0)	12 (6)	▲18 (▲1)			70 (28)	4.3 (1.5)
	29	12	11	1	5	▲17			42	2.8

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益消去等が含まれる。

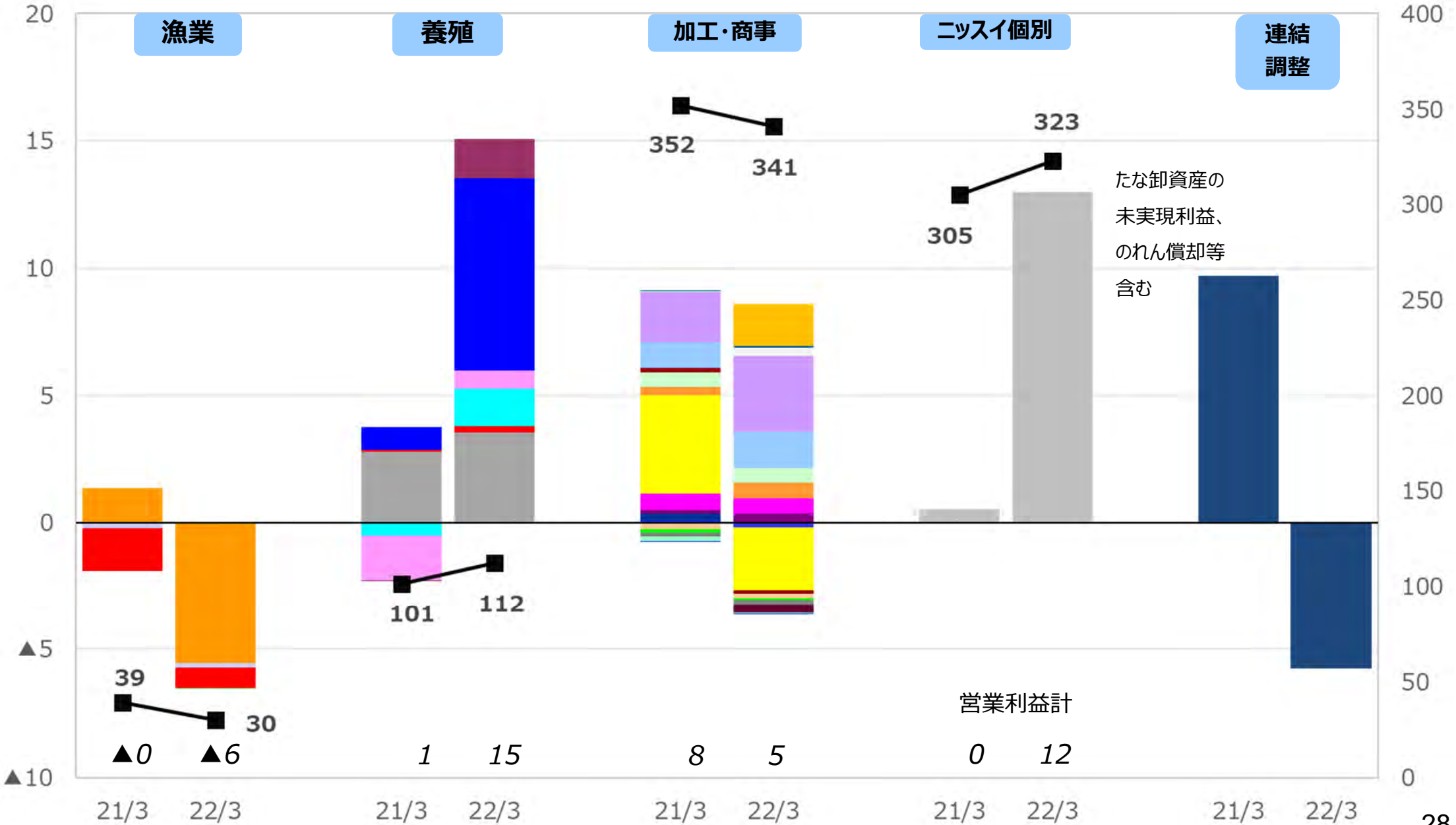
# 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)



営業利益 (棒グラフ)

(単位:億円)

売上高 (折れ線グラフ)



※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

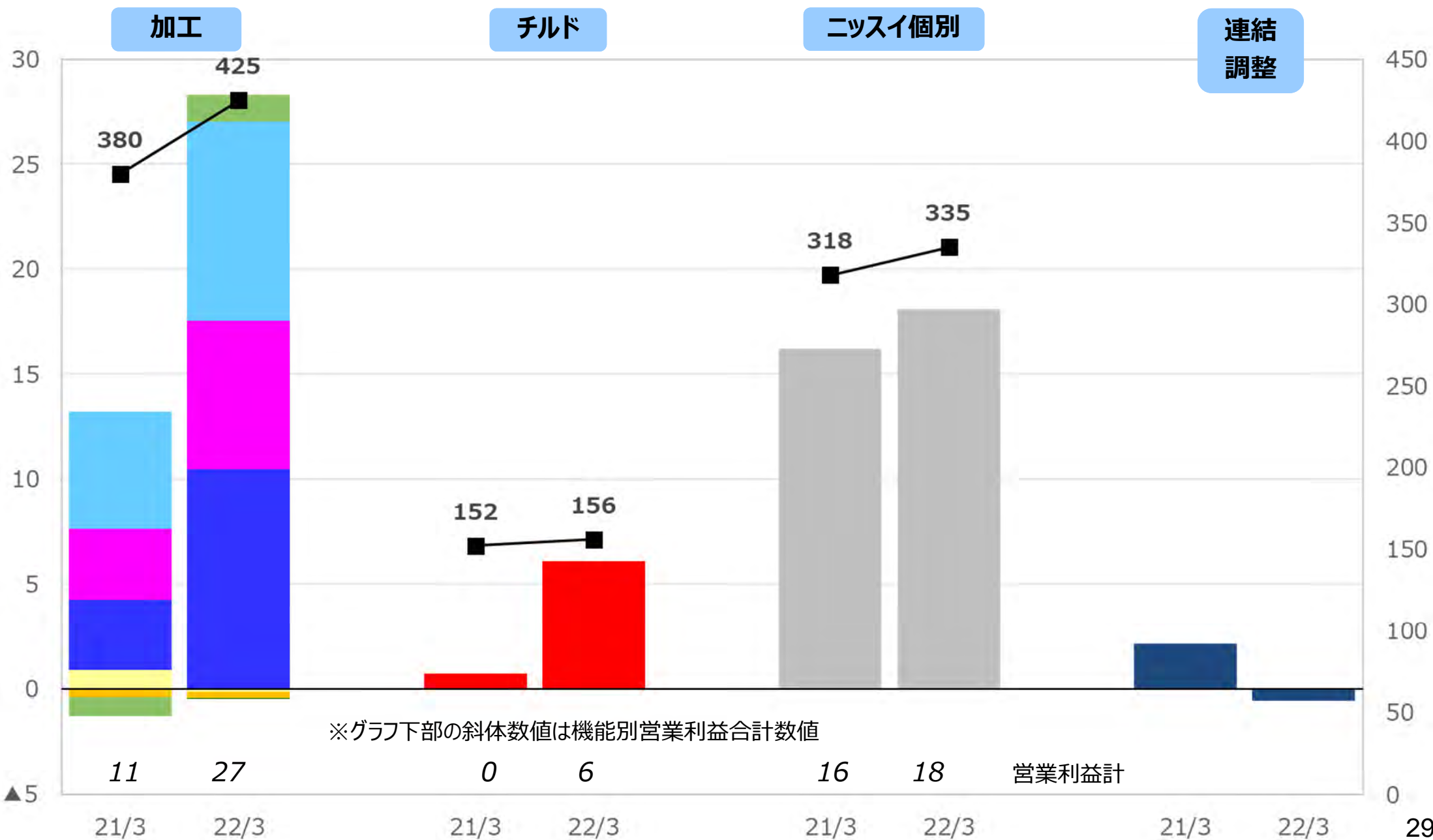
# 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)



営業利益 (棒グラフ)

(単位:億円)

売上高 (折れ線グラフ)



本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社

2021年8月4日

証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR部経営企画IR課

03-6206-7037

<https://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

